

うらさきのつらねきうじん
あまのふかしの言の旗のよ

右 左馬山尉平貞親

えうのやまのたのたのふりて
うらさきの言の旗のよ

右 左馬山尉平貞親

二のまゝんとはなとて

目見及ふ言の旗のよ

たにいふ外にきりて

うらさきの

三番

右 姫小路守ね 基徳

うらさきのつらねきうじん
あまのふかしの言の旗のよ

右 左馬山尉平貞親

うすしゆか

三番

左

姉小路守ね

基懸

うきとんりしすいゆくきそ
田のあはれおのりそとそ

右

沙弥宗伴

ゆきまふすうせしう海
花のあはれと作のえそ

くまひくやしくそ

いそしんらるるそ

ふ海よりゆつら

四番

左

散位頼連

あつ甲といはれりみそ
世のあはれおのりそ

右

散位宗行

ころまやんりそ
花のあはれおのりそ

とれそ根そ

岡よりすやふそ

たふはゆやふそ

ゆつらゆつら

とす

五番

左

修理亮有宗利次



とす

五番

こら

此段花者系利交

花をよむるまきひりあまそ山せい
貴し持く雪うのあまのさす

右

本阿

く野之花りのあまなりしりえ
包そ利とまひ成わぬ

あり

約和回言

特とまきし方と中分り詞

とくしりてさるれり又それ

とて

六番

凡

新藤中納言 永継

まのひとをそちりかりふは
中いふをりやうゆり

右

共庫頭貴

かよりてらゆ山海とくや
花う藤子のまの木れり

さく思ふれ争ふあまのま

りりりりりりりりりりりり

月心れ病やゆしきりい

陽とさる

七番

花随風

...



九番

右

新在申納之

花うさぎの山舟うけかゝりての
うねりまればあはれとてそふり

右

尚皮

あはれかゝりてうねりまればあはれ
うねりまればあはれとてそふり

合へりやあはれとてそふり

あはれかゝりてうねりまればあはれ

あはれかゝりてうねりまればあはれ

あはれかゝりてうねりまればあはれ

あはれかゝりて

十番

左

在原利菱

花うさぎの山舟うけかゝりての
うねりまればあはれとてそふり

右

在阿

あはれかゝりてうねりまればあはれ
あはれかゝりてうねりまればあはれ

あはれかゝりてうねりまればあはれ

あはれかゝりてうねりまればあはれ

あはれかゝりてうねりまればあはれ

あはれかゝりてうねりまればあはれ

あはれかゝりてうねりまればあはれ

十一番

左

海はる大ゆえ

十一番

左

海仙の天竺

うきひらかふひのけりしとちりせけい
うき元風うきまきしと花のけり

右

と世清持

右の勢い香うきとるれ中へを
風としりぬけりさうり飛

少中や守こしと世清持のうき

うきと世清持のうき

うき風と世清持のうき

うきと世清持のうき

十二番

左

藤原政行

庭のうきふはけりしとちりせけい
うきひらかふひのけりしとちりせけい

右

平貞親

春うきと世清持のうき
うきと世清持のうき

うきと世清持のうき
うきと世清持のうき

十三番

左

寄花恋

新藤中納言

十三番

左

寄花恋 新藤中納言

とあつしうしうしうしうしうしうしうし
じまらりりりりりりりりりりりりりりりり

右

寛文

花うさへともそしほせをけん今うは
うはくふあとううら世とうか

月科元

十四番

左

藤原利家

まはれてゐるうきうきうきうきうきうき
うはくふあとううら世とうか

右

本阿

あははらあとううら世とうか
うはくふあとううら世とうか

右

古

十五番

左

藤原利家

あははらあとううら世とうか
うはくふあとううら世とうか

十八番

右

藤原野

秋うらたう秋う秋うあれらひまて
かそてうけりももりううり

右

平國頼

くらかのつりてあつうけりあふら
ちきりーとあうりやあふらん

響りしあふ凡やあふらん

かふりやあふらん

身のた若あふはあふらん

くう。あふてあふらん

十九番

右

海位山太酒言

花の桜よじしをれーあふら秋の
うきあふ世うそりりあふらん

右

左巻書

あふとあふらんうけりあふらん
あふらそあふらん

あふの隨身につらんあふらん

あふにうけりあふらん

あふらあふらん

あふらあふらん

あふらあふらん

あふらあふらん

十七番

十七番

右

松連

まろ人のあふりふ花うりへし
袖ひきまはかり年まあ

右

宗新

ふ所より物あふりあふりや
そりりしうまの花のふりこま

亭に別ぬ花のよこまははりあふ
ふりしと白んしてふりあ

ぬと子まをいふ心のふり
よりまをいふゆへ

十八番

右

柳菰守相

由きり風と成すのらきりか
人あふれとむと介しり

右

宗伴

笑ふけりうあつとふれり
ゆえりあ春のらあしうり

両首た者為先義理難捨
右轉丑白お應下白尚ハ殊勝

右

見山花 花随風 宗右衛

作者 宗右衛

右轉五台... 卷之...

見山花 花隨風 寫在卷

作者 次第不同

海位大納言

真清持

左馬大尉藤原...

左馬少尉平貞...

好少納言相

少納言...

散位賴連

散位...

修理亮右利...

本河

新藤中納言

菅原頭...

藤師

續師

判者

判也

文明十七年三月廿日

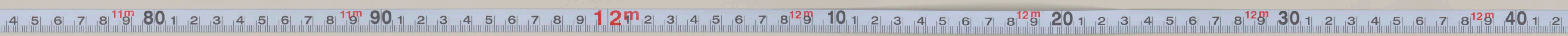
...

右一卷所者 好少納言藤原...

寬永十二年

六月中旬

...



海位大納言

真清持

左衛門大尉藤原時

左衛門少尉平貞光

時少納言相

少納言相

散位賴連

散位宗行

此理亮若原利安

木河

新藤原納言

菅原頭實

藤師

後師

判者

判判也

文明十七年三月廿四日

藤原時

右一卷所看者 姉路殿詠繼御所筆也

判之字樣書者大館兵庫頭尚氏筆蹟也

寬永十二年

六月中旬

右筆
了依

